

◆読育推進ネットワーク研修会◆

村山地区「読育推進ネットワーク研修会」①

- 1 テーマ 「心はずむ本との出会いを仕掛ける～楽しい読書環境づくり～」
- 2 期日・会場 令和4年9月2日（金） 大江町立図書館・大江町中央公民館「ぷくらす」
- 3 対象者 山形県家庭教育アドバイザー、小中学校教職員、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育所職員、一般参加など（参加者18名）

- 4 内容 (1) 大江町立図書館見学
(2) 事例提供「本好きな子供を育てるための実践例」

①上田 さゆり 氏（大江町立左沢小学校）

②梅津 愛 氏（村山市立楯岡小学校）

③軽部 恵美 氏（河北町立中央図書館）

- (3) グループワーク及び情報交換



テーマ「子供たちの本への興味・関心を高める読書環境をどのようにつくっていくか」

- ・「私のおすすめの一冊」及び日々の実践を紹介する。
- ・読書環境づくりを行う中での悩みや課題を出し合う。
- ・どうすれば乗り越えられそうか、ヒントや工夫を出し合う。
- ・全体で共有後、フリートーク



- 5 感染防止の工夫 ・健康チェック自己申告書の提示 ・検温 ・手指消毒
・換気 ・参加者間の距離の確保

- 6 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- 「読み聞かせ」をしています、この言葉があまり好きではなく、代わりの言葉が見つからなくなっていました。「読み語り」の言葉があって、「これだっ！！」と思いました。
- このような研修の機会がなかなかないので、情報を共有できるだけで励みになります。
- 親子で本に触れ合う時間や機会が減少している要因の一つとして、「親が忙しい」というアンケート結果がありましたが、「子供も忙しい」ということは目からウロコでした。
- 3つの実践例に共通して、面出しをしている書籍の貸出率が高くなるとお話をしていたので、蔵書量だけでなく面出しを増やすことが大事だと改めて感じました。ブックトークや読書郵便の取組みもとてもおもしろいと思いました。

村山地区「読育推進ネットワーク研修会②（「家庭教育支援フォーラム」③を兼ねる）

- 1 テーマ 「読書の魅力を再発見～アットホームな読書が広げる子供の世界～」
- 2 期日・会場 令和5年2月22日（水） 村山総合支庁西村山地域振興局講堂
- 3 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、各小中学校教職員、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育所職員、一般 等
(参加者29名)

4 内 容 (1) 講 話 (60分)

テーマ：「本の世界で豊かな心を」

講 師：川越 ゆり 氏（東北文教大学短期大学部子ども学科 教授）

(2) グループワーク及び情報交換

- ファシリテーター：県家庭教育アドバイザー、社会教育主事
- ・ 講話を受けて
 - ・ 「私のおすすめの一冊」を紹介
 - ・ 今年度の取り組みや連携の工夫などから、家庭での読書へいかにつながるか情報交換



5 感染防止の工夫 ・体温測定 ・手指消毒 ・換気 ・参加者間の距離の確保 等

6 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- 改めて読書の大切さや言葉のもつ力の大きさを感じました。講師の先生が「読育を進めるには何よりも『人的環境』が重要」ということを話されたので、これからは読育を進めていきたいと思いました。
- 多くの物語に触れたことがあるかどうか、自分の人生を生きる上で参考にできるものを多く持っていることにつながることで、子供のうちから物語に触れることで、豊かな発想につながるのだらうと思いました。
- 川越先生のお話の最後「日常的に本に親しんでいる人がそばにいるかどうかが大変だ」とおっしゃっていたのが心に残りました。学校でも家庭でも、そんな大人がいることを実現するには…。課題があるなあと感じました。
- 「絵本＝子供のためには読まなければいけない」という気持ちでしたが、絵本を通して体験しているという話を聞き、大人も絵本を通して体験しよう、楽しもうという気持ちになりました。
- 本の力を改めて感じさせてもらった研修会でした。本を通して、いかに子供たちが多くを学んでいるかを知ることができました。
- 子供の読み聞かせに対する考え方、同じ本でもくり返し学び、理解してもらうことが大切だと気づきました。
- 読み聞かせでおすすめなのは昔話ということ。なぜ昔話が良いのかという点についても教えてもらったので、今後取り組んでみたいと思いました。

最上地区「読育推進ネットワーク研修会」

- 1 期日・会場 令和4年11月10日(木) 最上広域教育研究センター 第1研修室
- 2 参加対象 家庭教育アドバイザー、最上地区読み聞かせサークル連絡協議会員、行政職員、保育士、図書館職員、地域コーディネーター等(参加者31名)

3 内 容

(1)事例発表:「最上地区読育推進連携講座について」

発表者:最上教育事務所

- 読育推進連携講座のねらいについて
- 令和4年度の読育推進連携講座の実施報告



(2)講演とワークショップ

演題:「Let's 考えよう!話し合おう!子どもとアートや読書を楽しむことに関するあれこれ」

講師:ラーワー ちひろ 氏 (絵本作家)



4 感染防止の工夫

- ・手指の消毒設備の設置やマスク着用・検温・受付用シートの提出等の要請を行う。
- ・対人距離をできるだけ広く確保する。
- ・ワークショップで使用するものは、なるべく共用を避け、必要な物品は個々に準備する。
- ・飲食物の提供は行わない。

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- もっともっと親子の方に読書の大切さを知ってもらえるような活動をやっていけたらと思いました。
- 読育がみんなに理解され、浸透してくれると良いと思います。
- 読書の格差が広がっていると思います。読む子は読むが、読まない子には読むきっかけが必要だと思いました。
- ほかのサークルさんの活動内容を見てみたいです。

置賜地区「読育推進ネットワーク研修会」

1 テーマ 「もっと楽しく活動するために！」

～あらためて考える「読育」って何だろう？～

2 期 日 令和4年11月10日(木)

3 会 場 白鷹町中央公民館 大会議室

4 参加対象 公立図書館（室）職員、市町担当者、保健師、子育て支援センター指導者、読み聞かせサークル、子育てサークル、幼稚園・保育所等関係者、小中学校図書館担当者、小中学校教員、PTA 関係者等（59名）

5 内 容

(1) 情報交換 「みんなに紹介したい推しの1冊！」

(2) 講演 演題 「もっと楽しく活動するために！」

～あらためて考える「読育」って何だろう？～

講師 金子 聡子 氏（絵本キュレーター）



【要旨】

- ①「読育」とは本をツールとして自分の中に言葉を蓄積していく方法
- ②「好き」にはパワーがある（「本が好き」という気持ち）
- ③ことばは「人」をつくる（人は、ことばによって自分を知る）
- ④絵本の魅力（読み聞かせの効果→子どもと楽しい時間を共有すること）
- ⑤思春期の読書体験のために（「好き」のパワーを使って作品を知る「きっかけ」を）
- ⑥自分のために絵本を選ぶ

(3) 実 演 金子 聡子 氏による実演



6 感染防止の工夫

- ・ 検温票の提出（入場時の検温）、手指消毒設備の設置、マスク着用
- ・ 間隔をあけた座席の配置

7 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 改めて「読育」について考え、自分の思いを確認し、いろんな方と語り合うことができました。
- 絵本の読み聞かせによって「言葉の大切さ」を改めて感じる事ができたのでよかったです。本を紹介する時間が、紹介している方の表情がキラキラしていてよかったです。
- 絵本を通して、言葉や人との関係、関わり方等まで学ぶことができるのだとわかりました。また、絵本を通して養える国語力がすばらしいことを再確認できました。
- 仕事に追われて、ゆっくり子どもに読み聞かせする時間も少なくなりましたが、今回「読育」のよき、大切さ等を知ることができたので、親子の共有の時間を大切にしていきたいなと思いました。

庄内地区「読育推進ネットワーク研修会」

- 1 期日・会場 令和4年11月29日(火)・三川町子育て交流施設テオトル
- 2 参加対象 子どもの読書活動にかかわっている方、読み聞かせボランティア、社会教育課・保健福祉主管課・子育て支援課・図書館職員、保育士、学校・幼稚園教諭 等（参加者31名）

3 内 容

テーマ 「あの手この手で家読につなぐ研修会 ～本を楽しみつくす+α～」

講師 本間 俊美 氏（読育アドバイザー）

<前半> 講話・実演（60分）

- 環境が子どもを変える
- 家読につなぐマンダラチャート 64のヒント
- 楽しく家読につなぐ あの手この手
 - ・双方向で読み聞かせ…単に本を読み聞かせて終わらない
 - ・毎日の記念日…家族を意識して365日の記念日に関する本の紹介

<後半> ミニワークショップ・まとめ（60分）



4 感染防止の工夫

- ・受付時の検温、手指消毒
- ・マスク着用の徹底
- ・座席の間隔

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 読書を学校での取組みだけでなく家庭へつなげていく重要性を知ることができました。簡単なことではないですが、頑張っていきたいと思います。
- 絵本は読んで終わりではなく、読む前から読み終わりまで楽しめるものだと改めて感じました。参加して良かったです。



◆読育推進連携講座◆

村山地区「読育推進連携講座」①

- 1 テーマ 「親子でさがそう！ひたろう！秋・冬シーズン絵本ハンター」
- 2 期日・会場 令和4年11月27日（日）山形県立図書館（遊学館）こどもエリア
- 3 対象者 3歳～小学3年の子供とその保護者等（参加者27名）
- 4 内容



(1) 読み聞かせ①
東北文教大学 学生6名

横沢 文恵 氏（東北文教大学短期大学部子ども学科 講師）

・木の実やクリスマスなど、秋から冬の季節にちなんだ絵本の読み聞かせ

(2) 絵本さがしビンゴ

・絵本に出てくる秋や冬のものでビンゴを楽しむ。
・ビンゴになったら県立図書館中庭のどんぐりをゲット



(3) ものづくり

・松ぼっくりやどんぐりを使って思い思いのものづくり

(4) 読み聞かせ②・手遊び歌

・手遊び歌で体も使って秋や冬を味わう。



- 5 感染防止の工夫
- ・参加人数の制限
 - ・健康チェック自己申告書の提出
 - ・活動場所の分散
 - ・テーブルごとに道具を設置
 - ・換気
 - ・手指消毒 など

6 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- 絵本だけでなく工作の時間もあって、とても楽しんでいる様子でした。
- 絵本を楽しむしかけがいっぱいありました。秋の木の実、葉っぱ、素材があり、ものづくりにも夢中になりました。
- ビンゴも読み聞かせも工作も、とても楽しく参加できました。
- 子供たちも楽しめ、とても良い講座でした。また機会があれば参加させていただきたいです。こうした機会が子供が本に関心をもつきっかけになるものと思います。
- おうちの人が本に関心をもち、本に親しめる環境を整える。その際、効率の図書館が親しみやすいものだありがたいです。県立図書館のリニューアル、とてもいいと思っています。

村山地区「読育推進連携講座」②

- 1 テーマ 「一緒にさがそう！ひたろう！絵本ハンター冬ブラボー！」
- 2 期日・会場 令和5年2月5日（日）大石田町町民交流センター（虹のプラザ）
- 3 対象者 3歳～小学3年の子供とその保護者等（参加者18名）
- 4 内容
 - (1) 読み聞かせ
大石田町子育てサークル「小さなおもちゃばこの会」
吾妻 満 氏（代表）、吾妻 菜々実 氏、伊藤 裕美 氏
・ 鬼や除雪車など、節分や冬にちなんだ絵本の読み聞かせ
・ 雪の結晶などに関する絵本の紹介
 - (2) 絵本さがしビンゴ
・ 絵本に出てくる秋から春のものでビンゴを楽しむ。
・ ビンゴになったらジャンボ松ぼっくりをゲット
 - (3) ものづくり
・ 松ぼっくりやどんぐりを使って思い思いのものづくり
・ 大石田町ボランティアサークル「二十四孝 PARTⅡ」のメンバー（高校生3名）がサポートにあたる。



- 5 感染防止の工夫 ・参加人数の制限 ・健康チェック自己申告書の提出
・ テーブルごとに道具を設置 ・換気 ・手指消毒 など
- 6 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - 子供が目をキラキラさせて楽しんでいました。一時間半があっという間でした。
 - 工作が好きなので、自由に作れたのが子供に良かったようです。
 - 乳幼児期から本を身近にすることが、本好きな子供を育てるために必要なことだと感じます。

最上地区「読育推進連携講座」

- 1 テーマ 「Let's enjoy みずのふしぎ」
- 2 期日・会場 令和4年7月9日(土) 最上広域教育研究センター
- 3 参加対象 参加者計 20名(児童9、保護者9名、行政職員2名)
スタッフ計 15名(理科読講師1名、理科読補助スタッフ2名、教育センター職員2名、新庄市立図書館職員3名、読み聞かせボランティア4名、事務局3名)

4 内 容・

【第1部】理科読体験

講師:佐藤寛稔氏(雪の里情報館館長)・チーム理科読
最上広域市町村圏事務組合教育研究センター職員

【第2部】おはなし会・移動図書館体験・フリー読書

講師:新庄市読み聞かせ連絡協議会 佐藤成美氏 他4名
新庄市立図書館職員

5 感染防止の工夫

- ・手指の消毒設備の設置やマスク着用・検温・受付用シートの提出等の要請を行う。
- ・少人数での活動とし、密を防ぐ。

6 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 実験や読み聞かせを通して、子どもの理解が深まりやすくなると感じました。
- いつもは本を読んであげる側なので、読み聞かせを受けるのは新鮮でした。改めて、たくさん本を子どもに読んであげたいと思いました。
- 今回のような講座を、科学だけでなく、料理や裁縫などいろいろなものとくっつけても楽しそうで、企画があったら参加してみたいと思いました。

理科読体験

チーム理科読の「博士」と「助手」による楽しいお話と実験で、水の不思議を追究しました。



おはなし会

水や自然、生き物が出てくるおはなしをたっぷり楽しみました。



移動図書館

科学に関する本、夏におすすめの本などをたくさん乗せてきてくれました。



庄内地区「読育推進連携講座」

- 1 テーマ 絵本とアートでお菓子の世界へ！
- 2 期日・会場 令和4年12月10日(土) 酒田市美術館
- 3 参加対象 親子14組30名(小学生14名・幼児2名・保護者14名)
- 4 内容 絵本の読み聞かせ+アート鑑賞
講師：丸山 恵 氏・高橋 恵子 氏 (おはなしユニット「ごっこ」)
武内 治子 氏 (酒田市美術館 学芸主任)

【前半】特別展「渡辺おさむ お菓子の美術館」のアート鑑賞

【後半】お菓子の絵本の読み聞かせ(3冊)+ブックトーク(7冊)

- ・ものすごくおおきなプリンの上で
- ・がまんのケーキ
- ・こねこのチョコレート

5 感染防止の工夫

- ・午前・午後の2回開催にして人数を調整
- ・検温シートの提出 ・マスク着用の徹底

6 参加のアンケートから(記述抜粋)

- 子どもと一緒に美術館はとてもハードルが高いイメージだったのですが、もっと気軽に行ける展示があることを知りました。読み聞かせでも、本選びや偏りを気にしていましたが、とても参考になりました。
- 作品にまつわるお話やアーティストのお話を聞くことができ、子どもはただ作品を眺めるより楽しめたと思います。また、作品に通じる絵本の読み聞かせもとても良いと思いました。
- 中学生のお姉さんたちも読み聞かせをしてくださり、子ども同士の交流のようで貴重な時間でした。まだ読んだことのない絵本があり、さっそく図書館に行きたいと思いました。



親子で記念写真

※この時だけマスクを外して撮影しました。

